

法医学実習

科目責任者 黒 須 明

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

法医学は法律上問題となる医学的事項について研究する社会医学の一部門である。したがって、社会が複雑化するにつれ、また人権意識が浸透するにつれて、法医学の包括する範囲も急速に拡大しつつあり、単に、司法上・行政上の寄与（損傷の成因、死因、死後経過時間の判定、自他殺または災害死の別の判断、既存疾患と外傷および中毒や医療行為との関係、個人識別、親子鑑定、血痕などの物体検査）のみならず、日常臨床にも深く関与している。

実習では血液型判定（ABO式，Rh式，交差試験），中毒物質検索と評価（一酸化炭素，アルコールなど），実症例の剖検写真および組織標本をもとに診断し，死体検案書の作成を行う。また，社会における医師の役割，司法当局との関係を理解する必要がある。そこで，栃木県警察本部等の見学を通して鑑識科学の実際と異状死体取扱いの現場を理解する。

II. 担当教員

教授	黒 須 明	法医学	助教	山 内 忍	法医学
特任教授	齋 藤 一 之	医学部	非常勤講師	松 川 岳 久	順天堂大学薬学部
学内講師	村 松 尚 範	法医学	非常勤講師	長 井 敏 明	法医学
教授	小 西 美 樹	看護学部	講 師	茅 島 綾	看護学部
教授	新 井 龍	看護学部	講 師	戸 沢 智 也	看護学部
准教授	河 野 かおり	看護学部	講 師	菱 沼 秀 一	看護学部
准教授	佐 藤 佳 子	看護学部			
准教授	玉 村 尚 子	看護学部			
准教授	野 口 貴 史	看護学部			

III. 一般学習目標

- ・ 中毒物質の検索法について理解し，その測定方法，原理を習得する。
- ・ 血液型の意義と検査法を理解し，正確な型判定ができる。
- ・ 標準的な採血法と血液の正確な取扱い方法を理解する。
- ・ 講義で学んだ知識をもとに，実症例を理解し，正確な診断を下すことができる。
- ・ 死体検案書，死亡診断書を正確に作成できる。
- ・ 鑑識科学の実際を理解し，正確に異状死体取扱いの現状を理解する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 中毒物質検索法を説明でき，簡便な検査が行える。
- 2) 血液型検査法を理解し，正確に型判定ができる。
- 3) 実症例を理解し，正確に死体検案書を作成できる。
- 4) 鑑識科学の実際を理解し，社会における異状死体取扱いの現状が説明できる

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション，ディベート 3: グループワーク 4: 実習，フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1. 2. 3. 4	4	27	月	4～7	県警講義	法 医 学 教 員	4
5. 6. 7. 8		28	火	4～7	血液型判定実習，薬物分析，法医病理学を3グループに分けてローテーション	全 教 員	4
9. 10. 11. 12	5	26	火	4～7	血液型判定実習，薬物分析，法医病理学を3グループに分けてローテーション	全 教 員	4
13. 14. 15. 16	6	2	火	4～7	血液型判定実習，薬物分析，法医病理学を3グループに分けてローテーション	全 教 員	4

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

- ・原則として欠席は認めない。
- ・栃木県警察見学では、医学生として恥じない態度で敬意をもって臨むこと。正装（ネクタイ，背広，女子はスーツ）が原則であり，服装および態度が劣悪な者（茶髪，ピアス装着，サンダル履きも含む）は出席を認めない。
- ・前項が最低限理解しなければならないものであり，当然，その評価には高い水準が要求される。特に検案書作成では，将来医師になって公文書を発行したり，患者や被害者に対する適切な説明を行うための重要な事項が含まれる。したがって語句の誤用，不適切な説明は減点対象である。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 「法医学 改訂第3版」南山堂
- 「標準法医学 第8版」医学書院（電子教材）
- 「臨床中毒学」医学書院
- 「新訂・死体の視かた」東京法令出版
- 「検視ハンドブック」南山堂
- 「医事法学・法医学」メジカルビュー社
- 「死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル」厚生労働省大臣官房統計部

VIII. 質問への対応方法

適宜質問を受けつける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたレポートの内容，試験結果について講評します。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊，事前配信資料に記載。なお，シラバス別冊等に記載がない場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安 20 分）

XII. コアカリ記号・番号

PR-01-01-02, PR-03-01-01, PS-03-05-06, PS-03-05-08, PS-03-05-09, CS-02-03,
CS-03-01-01, SO-03-01-01, SO-03-01-02, SO-03-01-03, SO-03-01-04, SO-03-01-05